

7 国際交流

進捗状況報告

○基礎的な状況を継続的に観測する指標				公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	国際交流協定締結機関数			公開	○	/	機関	/	/	/	/	/	
指標2	国際交流協定締結国数			公開	○	/	国	/	/	/	/	/	
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数		公開	○	/	国	/	/	/	/	/	
		外国人留学生	正規	公開	○	○	人	1	1	0	1		外国人留学生÷在籍学生数
			交換	公開	○	○	人	0	0	0	0		
		外国人留学生在籍学生比率	正規	公開	○	○	%	0.9	0.9	0.0	0.7		
			交換	公開	○	○	%	0.0	0.0	0.0	0.0		
その他 (セミナー等による受け入れ)		公開	○	/	人	/	/	/	/	/	/		
指標4	海外への学生の派遣	国 数		公開	○	/	国	/	/	/	/	/	
		人 数	長期	公開	○	○	人	2	0	0	1		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	公開	○	○	人	0	0	0	0		
		在籍学生比率	長期	公開	○	○	%	1.3	0	0	0.5		
			短期	公開	○	○	%	0.0	0.0	0.0	0.0		
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)		長期	公開	○	○	人	0	0	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)		短期	公開	○	○	人	1	0	1	0		
			長期	公開	○	○	人	0	1	0	1		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)		短期	公開	○	○	人	9	10	6	7		
			長期	公開	○	○	人	0	1	0	1		
○施策の目標の達成度を測る指標				公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数			公開	○	/	人	/	/	/	/	/	

注)全学的な視点、個別的な視点について
全学的な視点とは国際教育協力センターの進捗状況報告シートに表示される項目
個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目

注)正規、交換について
正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。

注)長期、短期について
指標4:1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。
指標5・6:1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。
注)指標4は学部、研究科を合わせた数とする。

2008年5月現在の神学部・神学研究科留学生数は次のとおりである。学部 1名、大学院前期課程 1名、大学院後期課程 2名。

ベルン大学神学部との学術文化交流協定については、ベルン大学神学部および関西学院大学神学部双方の合意を経て、継続更新を行なった(2007年12月付、有効期間3年間)。

学術文化交流協定を締結している監理教神学大学校(韓国)において、同校創立120周年を記念し、国際シンポジウムおよび学術交流セミナーが開催された(2008年4月3・4日)。国際シンポジウムは、韓国(監理教神学大学校)、中国(北京大学)、日本(関西学院大学など)から2名ずつの研究者が招待されたもので、本学部教員が、「Indigenization in East Asia - from the view of Japanese Christianity」のテーマでプレゼンテーションを行った。また学術交流セミナーでは『関西学院の神学教育の特色と韓国人学生 一戦前・戦時下を中心として』をテーマに本学部教員が発表を行なった。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2008年11月には、学術文化交流協定に基づき、監理教神学大学校(韓国)から教員を招いての学術講演会が予定されている。このような講演会は、神学部あるいは神学研究科における講義授業の一環として開催され、学部生・大学院生にとって、諸外国の教会事情や神学教育のタイムリーな情報を得、学びを深めるよい機会となっている。

学内第三者評価

国際交流協定に基づいた海外の大学との研究交流は教員レベルで堅実になされているものと認められる。少人数の学部ゆえに学部・研究科の実績が見えにくいという点を考慮しても、国際交流の実が学生に及ぼす好影響が読み取れない。例えば、外国人訪問研究者による学生向けの講演会や討論会が企画されても良い。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
派遣教員数を除いて、留学生受け入れ、学生派遣、研究者交流等、全体的に一層の努力が望まれる。特に、国際的場面で学生を訓練することは、今後のグローバル社会では益々大切であるから、更なる努力が望まれる。